



執事堂
 鼻焼く
 順禮哥の横
 詭りそれにあ
 て春の日に男が二人も焼死
 せしは當三月の四日にて奈良縣下なる若神山麓と分る處事に非を
 遺に三笠山麓の例事馴し車を走らば麓の草に火を付て谷易に
 草は焼尽すと云ふ絶頂小畑いし思ひの外に風をけし
 敵とせんときも猛火四方を塞ぎてを見非あ
 死せし哀多かる是の如くも誰人も万事に付て油断し命を失ひ
 賊を失ふ非間に此類此ありこそ身の用心火の用心

猩々堂九仙球

小修改二代
美作屋

和及

明治八年 大阪錦画新聞24号 文庫10-8064-23
 早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

